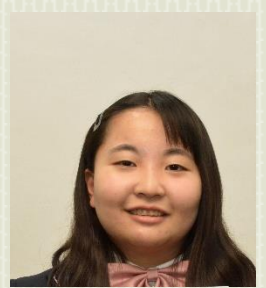


さとう みれい
青森山田高等学校 佐藤 海麗



私は今回、フランスとスウェーデンに行き、初めての海外ということから毎日が冒険のようでした。このプロジェクトに応募するときは宝くじ感覚でしたが、本当に行くことが決まり本当に驚きましたし、うれしかったです。「言葉の壁」というのも心配でしたし、初めて私たちが普段当たり前のように使っているエネルギーについて真剣に考えたと思います。原子力発電に賛成の人もいれば、反対の人もいます。「なぜそう思うのか？」などを理解することはとても大変で、相手の意見を尊重しながら自分の意見を述べるのも本当に大変でしたが、このようなことはこれから本当に役立つと思います。

私たち日本人は、めったにエネルギーの事を考えません。ですが、フランスやスウェーデンでは「教育」の中で学ぶそうです。それに加え、スウェーデンの原子力関係の職場で働いている人は、「今の原子力に関する問題は次の世代に残してはいけない」という考えを持ちながら毎日働いていることに、本当に感動しました。意識の違いというのか、考え方の違いというのかわかりませんが、日本も福島の問題を先送りするのではなく、今すぐにでも解決しなければいけないと思いました。私たちがエネルギーについて学んでいくうちに、日本には「エネルギーミックス」が一番適していると思いました。綺麗に三等分はできませんが、自然に左右されやすい再生可能エネルギー＋調節ができる火力発電＋原子力発電をパズルのように組み合わせれば、安定してエネルギーを供給できると考えました。お互いのデメリットを補い合い、最終的にできたメリットの方が大きいので、日本にはこれがベストだと思っています。

次に現地の高校生とは、最初に言ったとおり「言葉の壁」というのが一番大変でしたが、私が伝えたいことをちゃんと耳を傾けて理解してくれようとしてくれてうれしかったですし、私自身も初めて相手の事を精一杯理解しようと思いました。そのおかげからなのか、日本に帰ってきてから英語がスムーズに聞き取れるようになり、スムーズに自分が言いたいことが出てきて本当にビックリしました。フランス語で話されても少しだけ英語に似ているような気がして理解もできるようになりました。限られた時間の中で本当に有意義な時間を現地の高校生と過ごすことが出来たと思います。

私は小学生の頃から「医師」になりたいと心に決めてきましたが、今回外国に出る機会があり、「医師にもなりたいが、海外で働き最先端の医療を学びたい」という思いが出てきました。自分のわがままかもしれませんが、「もっといろんな世界をみてみたい」という気持ちにもなりました。世界に出るだけでなく、その世界で学んだことを青森に持ち帰り、そこで学んだ知識や経験を活かしたいと思っています。また、私が一番痛感したことは、私自身が青森に、そして日本に住んでいることもあり、なんでも答えられるだろうと思ってきましたが、実際に日本古来のものについて質問されたときは答えることができませんでした。それに加え、私は純粋

な日本人のはずなのに本当に日本語が苦手で、辛かったです。英語を話す方が楽に感じましたので、私はこれからまた日本語を学び、それからフランス語や、スウェーデン語を学び、色々な国の人と話せるように、これからも勉強を頑張りたいと思います。

他にもエネルギーのことなのですが、私の考えがもっと明白になった気がします。第一回目の事前研修ではエネルギーに関する知識は全くなく、「原子力は危険だから絶対に反対！」等と思ってきましたが、パワーポイントや資料を作るために色々調べていくうちに、原子力にしかできないことだったりが出てきて、どうやったらメリットを最大限に、デメリットを最小限にできるのかを常に考えるようになったと思います。全く知識がない状態から、このようになるまで育ててくれた方々に本当に感謝しています。

今、こうして終わってから振り返って見ると、本当に大変でした。時間もなし、その中でパワーポイントや、原稿、青森の紹介、自己紹介などいろんなものを誰がみても分かりやすいように作りました。ですが、このような経験は滅多にできないと思います。私は今までこのような機会をたくさん見逃して来たような気がします。無駄な時間を過ごしてきたような気もします。どれほどの時間を浪費し、どれほどのチャンスを見逃したか本当に後悔しています。なので、これからの卒業までの時間を大切に、自分で決めた夢に向かって、勉強を頑張りたいと思います。

最後に、私たちはエネルギーに対してあまり関心が無さすぎると思いました。私たちが今こうして生活できているのは、エネルギーのお陰なので、私はこれから節電などの行動だったり、これからのエネルギーについてどうすべきなのかを常に考えていきたいと思います。そして現地の高校生から学ぶことができた発言の仕方だったり、発言しないとなにも変わらないということをいつも心に留めて、その場の話し合いの雰囲気はただ聞いて、流されていくのではなくて、自らバンバン発言し、相手の意見を尊重しながら、その限られた時間を無駄にせずこれから生きていきたいと思います。

今回、一緒に選ばれたメンバー、そして引率者の方々、ここまで私たちを育ててくれた方々に本当に感謝しきれません。そして送り出してくれた両親、私にこのプロジェクトを薦めてくれた先生方に本当に感謝しています。まず私は、これから大学合格に向けて勉強に励んでいきたいと思います。このプロジェクトで得ることができたコミュニケーション能力や、ディベート力を普段の生活や、留学などで活かしていけたらいいなと思います。私はもうヨーロッパで美味しいものもたくさん食べたし、モンサンミッシェルの近くのレストランでピアノを弾くことができたのでもう満足です。なので、このたまったエネルギーを次の目標へとぶつけていきます。

本当にお世話になりました。ありがとうございました。

次の選ばれし6人へ、このプロジェクトは親身になって話を聞いてくれる大人の方々がたくさんいるので、なんでも質問してください！そして吸収してください。その吸収したものが、次の何かに繋がる手がかりになることを祈っています。

